



おもかげ復元師

笹原留似子氏講演会

どなたでもご自由にご参加ください。 **入場無料**

平成27年6月28日(日)

13:15~愛護会地域福祉推進協議会定期総会 14:15頃~笹原留似子氏講演会

江刺総合コミュニティセンター

奥州市江刺区岩谷堂下惣田290-1 お問い合わせ：愛護会の各施設にお問い合わせください。代表Tel 25-3732

主催 愛護会地域福祉推進協議会・愛護会立愛育研究所

愛護会地域福祉推進協議会は、水沢区・江刺区・前沢区・胆沢区・衣川区・金ヶ崎町に支部を置き、社会福祉法人愛護会が保育事業・障がい者援護事業・障がい者地域生活援助事業、長寿福祉事業で培った経験と専門性を地域に還元し、地域づくりに貢献する事を目的として活動しています。

平成27年度定期総会開催に合わせ、愛護会立愛育研究所と共催で記念講演会を開催いたします。

入場無料で、どなたでも自由に参加いただけます。

【当日のスケジュール】

◎ 愛護会地域福祉推進協議会定期総会の部
13時15分より

◎ 記念講演会の部
14時15分頃より(総会終了後)

講師紹介

プロフィール

笹原 留似子 (ささはら るいこ) 氏

北海道札幌市出身。株式会社桜代表

笹原留似子氏は復元納棺師として、人の心の悲しみや苦しみに寄り添ったグリーフケアの活動を進めています。東日本大震災では復元ボランティアとしてご遺族の方々に寄り添いながら300名を超える方々の復元を行いました。この様子は「NHKスペシャル」で放送され、大きな反響を呼びました。2012年には、社会に喜びや感動を与えた市民に送られる「シチズン・オブ・イヤー」を受賞しています。現在も復元納棺師として長期的視野に立った被災者支援の活動を続けています。



幼いころから、キリスト教日曜学校に通い、聖書の教え、マザー・テレサの精神を学びながら、医療関係主催のボランティア活動に参加。巫女として奉職し、神楽や舞楽を神前で奉納。3年後、巫女長になる。その後、病院のホスピス病棟に勤務。病棟で多くの患者を看取るなか、「もっと自分にはできないことはないか」と考え、復元納棺師となる。現在、セミナー講師としても活躍する。「おもかげ復元師」ポプラ社、「おもかげ復元師の震災絵日記」ポプラ社などの著書がある。

【NHKスペシャルの放送】

NHKスペシャルで放送があった、小学3年生の長女を筆頭に4人の小さな子供たちを残して津波にさらわれて逝ったお母さん。夫が、子供に見せることをためらうほど顔の損傷の激しいお母さんと対面させていいものか悩んでいたところに、笹原さんの存在を知る。

笹原さんはお母さんの思い出をたくさん聞いてから、顔のマッサージをして輪郭を整え、皮膚や唇の色、笑いジワまでを3時間かけて修復しました。

子供たちがやっとあのときと同じやさしい微笑みのお母さんに対面することができました。今まで死を認めたくなかったから話さなかったし泣かなかった子供たちが、「お母さんだ!!」と叫び、初めて泣くことができた、死を受け入れられた瞬間だったと話すお父さん。

笹原さんは今も時々ご自宅を訪ねられるそうです。

「仏壇で微笑むお母さんに子供たちが自然に話しかけていたんです。いつもそばにいるようです。」と。

「笹原さんとの機会があったからこそ、今子供たちがこうしてお母さんと笑って話ができている」とお父さんはおっしゃいます。

-----HP: <http://monmens.exblog.jp/18508402>より抜粋転載-----

【支援活動】

復元作業は時間との闘いです。腐敗が始まると、元の姿に戻すのがさらに難しくなってきます。震災から十日後に発見された一人の女子高生もそうでした。少女のお父さんは、現

実を受け入れられないのか、うつむいたまま、押し黙っています。「ちゃんときれいな元の姿に戻すからね」。そう語りかけながら、復元に取りかかりました。作業は二時間以上に及びました。

正月に着ていたのでしょうか、少女の仏衣には、鮮やかな晴れ着が用意されていました。足袋を履かせて、遺族との対面のときを迎えました。気丈にふるまっていたおばあちゃんは「ああ、眠っているみたいだ」と声を震わせると、ご両親もその場で泣き崩れました。

おばあちゃんは、私の手をぎゅっと握り、こう言ってくれました。「この手は、たくさんの悲しみに出合うんだね。頑張れるように魔法をかけてあげるから、頑張れなくなったら、私の手を思い出してね。さあ、もう行きなさい。次の遺族が、たくさんの人が、いまあなたを必要としてくれているよ」と。

非日常の毎日で、あまりにも多くの苦しみや悲しみにふれ、心が折れっぱなしでしたが、私はこの言葉にどんなに励まされたことでしょう。

その後、遺体安置所の警察官たちが一人、また一人と「何かお役に立ちたい」と申し出てくれるようにもなりました。安らかに旅立ってほしい。その思いはみんな同じだったので。全国から化粧品や脱脂綿、消毒薬など、たくさんの支援物資も寄せられました。遺体の復元ボランティア活動は、こうした多くの人の支えがあってこそさせていただけたのだと思います。

----HP: <http://www.cocolotus.com/item/1656>より抜粋転載----

愛護会地域福祉推進協議会 事務局

〒023-0132

岩手県奥州市水沢区羽田町字水無沢491

電話 0197-25-3732

FAX 0197-25-6662

愛護会地域福祉推進協議会と愛護会立愛育研究所については、以下の社会福祉法人愛護会のホームページから御確認いただけます。

<http://www.aigokai.jp/>



笹原 留似子 著書